

中津川市地域医療実習 感想文

琉球大学 3年生

中津川地域総合医療センターの皆様や見学させていただいた施設の方々のおかげで有意義な5日間にすることができました。お世話になった皆様、本当にありがとうございました。

感想文は3種類の内容に分けて記入いたしました。掲載する際には自由に編集・変更していただいて大丈夫です。

〈地域包括ケアの実態〉

地域包括ケアについて学ぶ機会はこれまで何度かありましたが、医師の視点で語られていたり、机の上での話だったりで、なかなかイメージができませんでした。しかし、今回の実習では介護・福祉の領域から体験に基づいた学びが得られたので、だいぶ解像度が上がったような気がします。具体的には障害のある方の場合、発達支援の段階から就労支援の段階、そして介護に以降するまでの段階を追うようにして分析できました。特に、パーソナルドア(株)というB型事業所を運営しながら医師をしている榎間先生からは、事業所の経営といった踏み込んだ話まで聞けたのが印象的でした。

〈デイサービスとリハビリテーション〉

社会福祉法人敬愛会「シクラメン」さんのデイサービスを見学させていただいたときに、理学療法士さんからリハビリのことやデイサービスの目的について教えていただきました。この実習に参加する前は、デイサービスは高齢者が交流したりレクリエーションをしたりして時間をつぶすものという印象をもっていました。しかし、施設の人のお話を聞いて、デイサービスは身体機能の保持・回復も目的としていることが判りました。そのため、理学療法士さんは利用者にはリハビリを継続してもらえよう様々な工夫をしていました。例えば、以前よりも体力測定の結果が悪くなってしまった利用者さんがいたとしても、「悪くなった」とは言わずにポジティブな言葉に変換して伝えるようにしていました。これは医師にも応用できることだと思ったので、真似していきたいと思いました。

〈医療と教育の職人〉

中津川市地域総合医療センター長の伴信太郎先生の指導のもと阿木診療所で外来見学をさせていただきました。伴先生は医学教育に熱い方だと聞いていたので、「医学教育」のスペシャリストなのだと思っていましたが、伴先生と一緒に過ごしてみて「医療と教育」のスペシャリストだと私は解釈しました。つまり伴先生は私が目指す「街づくり」に必要な3つの要素である「産業・医療・教育」のうち2つを会得した二刀流の達人のような人でした。具体的には、伴先生が診察する前に外来の患者さんの経過を聴取する機会が与えられ、聴取が終わったらその患者さんと一緒に伴

先生の診察室に行くということをしました。そこで伴先生からのフィードバックや医学的なことを教えて下さったのでとても勉強になりました。この実習を通じて、私は「医療と教育」という二刀流の技をたくさん学んだので、それを使いこなせるようにこれからも頑張っていきたいです。